

第3節 まちづくりの背景

1. 社会潮流

人口減少・ 少子高齢化の進行

- ◆ 我が国の人口減少は、今後、少子高齢化の進行に加え、老年人口さえも減少していく人口構造の変化を伴いながら加速度的に進むとされており、労働力人口や消費市場の縮小など、地域社会に深刻な影響を与えることが懸念されています。
- ◆ 我が国全体の老年人口がピークに達する「2040年問題」への対策（医療・社会保障、労働生産性、都市のコンパクト化、過疎化・空き家対策など）が急務です。
- ◆ このような中、国と地方が一体となって人口減少のスピードを抑制するとともに、地域の特性をいかした交流・関係人口*の拡大による活力創出や、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めることが重要になっています。
- ◆ 地方においては、若年層の就職などに伴う大都市圏への流出などが続いており、地域経済の活力喪失を防ぐため、若い世代にとって魅力ある環境の創出を図る必要性が高まっています。
- ◆ 人口減少が進む社会では、性別、年齢、障がいや病気の有無、国籍などを問わず、意欲のある人があらゆる場面で活躍する「総活躍社会」の創造が求められます。

安全安心を脅かす リスクの高まり

- ◆ 近年、全国各地で甚大な被害を及ぼしている集中豪雨や台風に加え、巨大地震や火山噴火の懸念、新たな感染症の流行などにより、安全安心な暮らしを脅かすリスクが高まっています。
- ◆ 今後起こりうる危機事象による社会経済への影響を最小限にとどめ、迅速に回復が行われる体制を整えるためには、行政や町民、事業者などがそれぞれの役割を認識しながら、相互に連携して、本町の安全性を高めしていくことが求められています。
- ◆ 新型コロナウイルス感染症に伴う甚大な影響は、地球規模で社会、経済、人々の行動や価値観などあらゆる面に波及し、長期にわたり、大きくその影響を受けることが予想されます。このような中、感染症拡大防止の対応と社会経済活動の両立を進め、変化に柔軟に対応しながら、新たな経済社会の姿を実現することが求められています。

*関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光に訪れた「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人。

価値観の 変化・多様化

- ◆ 我が国は、医療の発達と健康意識の向上などによって人生100年時代を迎え、生涯にわたり活躍できる社会が求められています。
- ◆ 国籍、文化、価値観が多様化する社会において、互いに尊重する「共生社会」の形成がますます重要です。
- ◆ 性別に関係なく、意欲に応じてあらゆる分野で活躍できる社会の実現が求められています。

技術革新(イノベーション)、 国際化などによる 社会の変革

- ◆ 世界規模で問題となっている地球温暖化対策のため、地域資源を有効活用した再生可能エネルギーの導入などを通して、脱炭素社会*の実現に向けた取組を進める必要があります。
- ◆ 国連サミットにおいてSDGs(エス・ディー・ジーズ「持続可能な開発目標」)が採択され、令和12(2030)年の目標達成に向けて世界が動き出しています。世界共通のSDGsの17の目標は、経済成長・雇用、健康・福祉、気候変動などで構成されていることから、一人ひとりが持続可能な社会を形成するため主体的に行動することが大切です。
- ◆ 情報通信技術の飛躍的な発展や交通手段の発達などにより、国際化が一層進展し、世界規模で社会的・経済的な結び付きが深まっています。IoT*、ビッグデータなど第4次産業革命*ともいわれる技術革新が進む中、新しい生活様式の実践も相まって、経済活動や日常生活におけるデジタル技術の活用(Society5.0*の導入)が、今後さらに社会全体へ広がることが予想されています。

***脱炭素社会**：地球温暖化の大きな要因となっている、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出が抑えられた社会。

***IoT**：Internet of Thingsの略で、「モノのインターネット」と呼ばれる。自動車、家電、ロボットなど、あらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやりとりをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化などが進展し、新たな付加価値を生み出す。

***第4次産業革命**：デジタルな世界と物理的な世界と人間が融合する環境。具体的には、あらゆるモノがインターネットにつながり、そこで蓄積される様々なデータを、人工知能などを使って解析し、新たな製品・サービスの開発につなげるなどとされている。

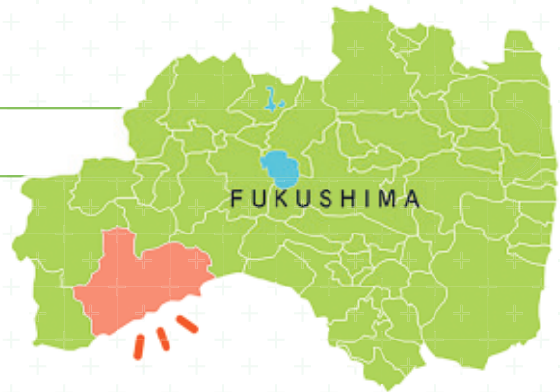
***Society5.0**：サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)のこと。

第3節 まちづくりの背景

2. 本町の概要

地理的状況

- ◆ 本町の総面積は886.47km²です。福島県の南西部に位置し、南会津郡の下郷町・只見町・檜枝岐村、大沼郡の昭和村、栃木県那須塩原市・日光市と隣接し、東北地方の南の玄関口となる地域です。
- ◆ 平成18(2006)年3月20日に田島町・館岩村・伊南村・南郷村が合併して誕生しました。
- ◆ 会津縦貫南道路、栃木西部・会津南道路、国道289号八十里越の整備が進んでいます。



自然の状況



- ◆ 地形は、越後山系から連なる帝釈山(標高2,059.6m)を最高峰に、山に囲まれています。
- ◆ 河川は、荒海山を源とする阿賀川水系と伊南川水系の2つを有しています。
- ◆ 気候は、夏は朝夕しのぎやすい大陸型、冬は厳しい日本海型に属し、館岩・伊南・南郷地域は特別豪雪地帯に指定されています。

産業・経済の状況

- ◆ 農業は、水稻を中心に、地域団体商標*を取得している南郷トマトや会津田島アスパラガスのほか、ソバ・尾瀬リンドウ・カスミ草などの栽培が行われています。
- ◆ また、古くから酒造りが行われており、町内4つの酒蔵で造られる日本酒は多くの人に親しまれています。
- ◆ そのほか、自動車部品・精密機械・通信機器・縫製・光学レンズ・地場木材産業などの立地企業や観光レジャー産業があります。



*地域団体商標:「地域ブランド」として用いられることが多い地域の名称及び商品(サービス)の名称などからなる文字商標について、登録要件を緩和する制度。地域の産品などについて、事業者の信用の維持を図り、「地域ブランド」の保護による地域経済の活性化を目的として平成18(2006)年に導入された。

観光の状況

- ◆ 尾瀬国立公園に指定されている田代山・帝釈山をはじめ、本町の雄大な自然環境の中で様々なアクティビティを体験することができます。阿賀川・湯ノ岐川・伊南川などでの溪流釣り、七ヶ岳・田代山・帝釈山・三ツ岩岳・大博多山などでの登山、駒止・田代山・宮床湿原などでの自然散策、滝原・湯ノ花・小豆・山口温泉などの温泉施設、だいくら・たかつえ・高畑・南郷の各スキー場など、四季折々の魅力をいかした観光を推進しています。
- ◆ また、平成29(2017)年に首都圏から会津田島駅までの特急乗り入れが開始され、首都圏からのアクセス性が向上しています。



歴史・伝統行事・伝統芸能の状況

- ◆ 本町の歴史は古く、石器、土器の出土により縄文時代以前から先人の居住が知られています。鎌倉時代に長沼氏の所領として田島地域に嶋山城が築かれたほか、安土・桃山時代には伊南地域に、伊達家の侵攻に備えるために河原田氏により久川城が築かれました。江戸時代には、町内全域や大沼郡・栃木県塩谷郡の一部とともに幕府直轄地「南山御蔵入領」となり、その後も下野街道(会津西街道)の主要宿場町の一つとして栄えました。
- ◆ 伝統行事・伝統芸能として、820余年の伝統を誇り、国指定重要無形民俗文化財に指定されている「田島祇園祭のおとうや行事」、田島地域の「子供歌舞伎」・「栗生沢三ツ獅子」「高野三匹獅子」、舘岩地域の「湯ノ花神楽」、伊南地域の「古町まつり」、南郷地域の「早乙女踊り」などが伝承されているほか、江戸時代からの太鼓胴の産地としても知られています。また、古くから会津田島祇園祭の衣装染めを通して藍染が行われおり、町民により設立された藍染保存会が技術の継承に取り組んでいます。